

令和7年度 第1回岡崎市農業振興ビジョン推進委員会 会議録

1 開催日時

令和7年10月17日（金） 15:00～16:15

2 開催場所

岡崎市役所西庁舎 7階702号室

3 出席者

(1) 会長

藤井芳一

(2) 職務代理人

羽根田正志

(3) 委員

大竹博久、小久井孝幸、本田みさ江、太田立身、笹竹恵子

(4) 事務局

経済振興部長：畔柳久司

経済振興部農地整備課長：柴田英幸

経済振興部中山間政策課長：雑賀章友

経済振興部農務課長：小林哲夫

経済振興部農務課副課長：板坂英幸

経済振興部農務課農政係：井尻智久、杉浦一子

4 傍聴者

なし

5 会議次第

議題

(1) 岡崎市農業振興ビジョン2030（農業振興計画・都市農業振興計画）アクションプランについて

(2) 農業振興に関する市民意識調査の結果について

(3) 岡崎市農業振興ビジョン2030（農業振興計画・都市農業振興計画）の中間評価について

(4) 岡崎市農業振興ビジョン2030（農業振興計画・都市農業振興計画）の見直しについて

6 議事要旨

議題

(1) 岡崎市農業振興ビジョン2030（農業振興計画・都市農業振興計画）アクションプランについて

岡崎市農業振興ビジョン 2030（農業振興計画・都市農業振興計画）アクションプランについて、事務局から説明。

<挙手全員、原案どおり可決>

- (2) 農業振興に関する市民意識調査の結果について
農業振興に関する市民意識調査の結果について、事務局から説明

【各委員の主な意見・質疑】

○会長

有機農業で生産された農産物のイメージで「安全である」の割合が大幅に上昇しているのは、特に施策を実施したのか。

(事務局)

令和6年3月に岡崎市はオーガニックビレッジ宣言を行い、環境負荷低減を目的として有機農業を推進している。安全という言葉は使用しておらず、メディア等の影響もあるかと思われる。

○委員

地産地消で特に力を入れていることはあるか。

(事務局)

岡崎市農林業祭の開催や学校での出前講座、他イベント等を行っている。

○委員

産直施設で特に行っていることはあるか。産直施設にて売られている野菜を使ったレシピを紹介する掲示等により、なじみのないものも買いやすくなり地元のものを消費できるのではないか。

○委員

基本的には各産直施設でレシピの紹介を行っている。また、昨年度のおこめ券配付により産直施設に多くの方がお越しいただき、地産地消の推進にも繋がった。

○委員

農業に注目が集まっている時こそ、農業者の支援を考えていかないと、農業者の減少により農地の維持管理が難しくなっていく。

<挙手全員、原案どおり可決>

- (3) 岡崎市農業振興ビジョン 2030（農業振興計画・都市農業振興計画）の中間評価について

岡崎市農業振興ビジョン 2030（農業振興計画・都市農業振興計画）の中間評価について、事務局から説明。

【各委員の主な意見・質疑】

○会長

新規就農者数が令和2年度と令和6年度を比較して増加していないことについてのどのように考えているか。

(事務局)

数値は、半農半Xや兼業は入っておらず、専業の新規就農の数値であり厳しめの設定である。相談者自体は増加傾向にあり、計画の終期に目標を達成できればよいものとする。

○委員

新規就農者への国や県、市の支援策はあるのか。

(事務局)

国や県の支援及び市独自の支援策もある。

○委員

荒廃農地とはどのような状態の農地のことか。どの地域が多いのか。

(事務局)

荒廃農地とは、通常の農作業では作物の栽培が客観的に不可能となっている基準に該当する農地として把握されたもの。額田地域が多くを占めている。

○委員

額田地域の荒廃農地が多くを占めているのは高齢化が原因か。

(事務局)

年齢もあるが、鳥獣害も原因として考えられる。

<挙手全員、原案どおり可決>

(4) 岡崎市農業振興ビジョン 2030（農業振興計画・都市農業振興計画）の見直しについて

岡崎市農業振興ビジョン 2030（農業振興計画・都市農業振興計画）の見直しについて、事務局から説明

<挙手全員、原案どおり可決>

7 その他

岡崎市農林業祭の開催について、事務局から説明

終了を宣言。